

テーマ「社会・文化」

～保護者を通して知る社会・日本の文化～

【テーマの設定理由】

日本や他国の文化、世界の国旗などを通して様々な国の国旗や文化に興味を持つ姿があり、その興味関心を深めていくため。他国の保護者がいることを活かし、子どもたちにその国についてや文化を伝えてもらい、民族衣装を作ったり、ダンスをしたり、食べものを作ったり食べたりする活動を幅広く行なっていく。

8月 おやこポートフォリオ 保護者の方の得意なことを（服飾やダンス、食など）掲示、展示、体験できるような空間、時間を設け、それを子どもたちが体験する行事として行っている。

11月 ピアッツァ 文化や社会を体験できるコーナーを考える。

通年

伝承遊び（なわとび、こま回し、わらべうた）などを子ども同士で楽しんだり、夢中になっている姿があるため、子どもたちの姿に合わせて、保護者の方にも関わっていただきながら、日本や世界の伝承遊びを探究していく。

おやこポートフォリオを通して

昨年に引き続き、子どもたちは様々な国旗を見たり、その国についての知識を深めたりすることを楽しむ姿がありました。クラスでの朝夕の集まりでクイズを出し合って知識を身につけたり、衣装コーナーでは民族衣装を身に纏って遊ぶ姿が続いていました。そこで今年も8月に向けておやこポートフォリオというイベントを企画し、保護者の方にネパールの民族衣装のサリーの着付けを行なってもらうことにしました。



ナマステ！



実施内容

①サリーの紹介 ②着付け体験 ③質問タイム

◀子どもの衣装でも布の長さが3m必要ということを知り、驚きの声があがりました。

着付けを終え、最後に額にビンディのシールやアクセサリーを身につけ嬉しそうな子どもたちの笑みを見ることができました。また、ネパールダンスを見て一緒に踊ったり、島や街のことを教えてもらうこともでき、子どもたちの興味が膨らんだことを感じました。



他にも、食に関わる仕事をしている保護者の方の発案で『出汁』について掲示と展示をしていただきました。



美味しそうな匂いに、思わず口が開く姿もありました。
慣れ親しんだ香りがふわっと香ってきたのかもしれません。



煮干しの匂いを嗅いで…

年長の男の子は「ペンギンの匂い」、
年中の男の子は「嗅いだことある匂いが
する」と呟いていました。香りには子ども
たちの経験や体験、それぞれの印象が
あることを感じました。

日本の文化としての『出汁』

11月に開催した園行事『ピアッツァ』では、8月に掲示していただいた出汁を実際に飲めるコーナーを設けました。作りたての出汁の色が黄金に輝いて子どもも保護者も感動していました。



保護者の方が出汁の種類や作り方、応用レシピなどを考案してくださり、子どもと保護者に向けて話をしてくださいました。



子どもたちは実際に出汁を飲み、慣れない味に驚いたり、不思議そうな表情を見せたり、さまざまな反応をしていました。普段の料理に慣れ親しんだ味（カツオ出汁）がすることでおかわりを何度もする子もいれば、あまり慣れない味（昆布出汁）だからこそ興味を持って味わっている子もいて、出汁で一息つきながら心も体も温まる素敵な時間を過ごしました。



出汁を取って大根のおでんを作ろう

大根を育てていた以上児クラスの子どもたちは、『おでん』を作ることに決めました。そこでピアッツァで出汁ブースを担ってくれた保護者の方に相談し、カツオと昆布の2種類の出汁を取ることにしました。調理さんにも手伝ってもらいながら、美味しいおでんを味わうことができました。

文化遊び

以上児クラスではコマ回しが人気になり、夢中になって練習する姿がありました。年長がかっこよくコマを回す姿に影響を受けて、年中、年少の子たちもどんどん上達し、学年やクラスを超えて切磋琢磨して技を磨いていきました。

そしてガタガタしている床ではコマの記録（何秒回せるか）が伸びないということで、大きい板でコマ台を製作しワックスをかけて磨きました。

2月に行われた感謝祭という行事では、自分たちのコマ回しを保護者や友だちに発表し、自信に満ちた顔でやり遂げました。



< 振り返りによって得た気づき >

去年から引き続き、世界の衣装や国旗の本を環境に設定していたことで、年少児にも世界への興味を引き継がれていったように感じました。各クラスの朝夕の集まりでも世界の国のクイズを出して楽しむことが日常になっていったのですが、昨年度の年長が主で興味を持っていたこともあり、楽しみがこれ以上に広がることがなかったように感じました。一方で、保護者の方の協力もあって日本の食の文化にも興味を持つ子どもの姿が見られました。保護者が『出汁』という日本ならではの文化を紹介して下さったことをきっかけに、子どもたちが味噌汁やおでんを作り、それには何の出汁がいいかを考えたり、調理をしたりして保育に展開させることができました。子どもたち自身が協力し合い、試行錯誤をして実際に体験をすることが大切のように思いました。また、子どもだけでなく、ピアッツァで親子で味わってもらえることも交流が持てるいい機会となりました。

こま回しやわらべうたは日本の伝承遊びを知るきっかけになり、昔遊んでいた保護者の方も多かったため、一緒に楽しむことができました。さらに、日本の文化から世界の遊びを知っていくことも探究していけたらなお良かったのではないかと振り返りました。